



四 気 折 々

川越町立川越中学校
「学校だより」第40号
令和6年12月23日
「認め合う・支え合う環境
づくり」人権学習の成果

2学期のいっぱい成果から！日々の人権学習の積み重ねとして…。

文化祭はじめ人権学習、人権フォーラム、クラスキグ、講演会等2学期には多くの「学びの場」がありました。このような取り組みや学びを積み重ねてきた川中生は、『認め合う・支え合う環境づくり・学校づくり』をすすめる大切な1人として、これからの学校生活につなげてほしいと思います。

- ① 川越中学校2年1組にて「人権学習の授業提案発表」を実施。その後、教職員研修会でも振り返りを行いました。先生たちも日々人権学習です。
- ② 人権作文コンテスト表彰式から見える川越中学校人権学習の成果。今年度も1名の人権作文が三洩地区で「優秀賞」を受賞しました。
- ③ 三重郡人権フォーラムで、2年生5名が「様々な人権課題について」自分の意見を出し合いながら、三重郡内の中学校のみなさんと人権について話合中で多くの学びを得ました（本日還流報告会）。
- ④ 「いのちの大切さを考える講演会②」として、浦狩知子さんを講師に『自分のことは自分で認める（自認：じにん）』という演題にて、「多様な性のあり方について」「素自」を学ぶことができました。
- ⑤ 令和6年度三重県PTA連合会主催「楽しい子育て全国キャンペーン 三行詩コンクール」において、昨年度に続き、三重県入賞として3名が「入選」受賞をしました。

わかる・できた
と思える授業

生徒に寄り添う
生徒理解の充実

認め合う・支え
合う環境づくり

子どもたちが主体と
なる自治活動

心とからだの健康

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめます。

川越中学校では令和6年度の「学校教育ビジョン」においても、『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として、一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みの中で、大切にしている1つの項目に「認め合う・支え合う環境づくり」・「心とからだの健康」があり、次の5つの具現化した「ねらい」があります。川越中学校がすすめる人権学習は、『クラスのみならず、学年のみならず一緒に考えて、磨いていこう…。』このような気持ちを大切に、人権学習に取り組んでいます。

『認め合う・支え合う環境』づくり……具現化した「ねらい」

- ◆一人一人が安心して自分の想いを伝えることができる居場所づくり ◆生徒間交流ができる場の設定
- ◆いじめ差別を許さない心の育成 ◆自尊感情・自己肯定感の高揚 ◆道徳教育とキャリア教育の推進

【子どもたちの活躍の場 「日々の人権学習の積み重ねの成果」】

① 10月後半から12月にかけて全校での人権学習の取り組み

■1年生：『障がい者理解から学ぶ人権』（全10時間）

「社会的障壁をなくすために・・・」「障がい者権利条約」等により権利保障は進んでいるが、依然として社会には障がい者の自立や社会参加を妨げる障壁が存在し、それをどうやって無くしていくかが課題となっています。

【1年生生徒の人権学習の振り返りから(1年1組より)】

「社会的障壁をなくすためには、そうだと思ったり、決めつけるのではなく、その人がどうしてほしいかを聞くことが大切だと思いました。障がいがある人が使いやすいための施設や、整備が行われているけれど、合理的配慮を自分たちも行っていないといけないことがわかりました。周りの環境が「障がい」であり、それを良くし、改善していくことが「心のバリア」を無くしたり、誰もが良いと思える社会をつくっていかないとおもいました。

先入観などが差別につながってってしまうと思うので、自分も先入観などで、他の人を傷つけてしまわないよう気をつけたいと思いました。

1年生では、人権学習のまとめとして・・・人権学習講演会を実施します。

3学期（2月6日（木））1年生人権講演会 講師「田中麻莉絵（たなかまりえ）さん」
ヘルプマークを知っていますか？ ～ 命と時間のお話 ～

■ 2年生：『 部落問題学習から学ぶ人権 』（全10時間）

歴史的背景から、「水平社宣言」について学び、仲間とともに差別のない社会をつくろうと立ち上がり行動した姿から、今の自分の姿を振り返り、クラスのことや仲間のことについて考えてもらえるように。自分事として、自分たちのこれからの生き方について学ぶ。

【 2年生人権学習「部落問題学習」の提案授業を行いました！ 】

■ 11月28日（木）13時25分～ 2年1組にて 授業者「縣 秀和 先生」

■ 題材 「部落差別を受けてきた人々の生き方と、差別解消のために活動した人々の生き方から学ぶ」

■ 授業内容 「人の生き方とは ～ 水平社宣言から考える ～」

■ 時程 13時25分 ～ 14時15分 5限目「部落問題学習」提案授業

14時35分 ～ 16時30分 先生たちの事後研修会（講師先生の助言等）

※先生たちの事後研修会の討議の柱

「 取組みの内容が、子どもたちの人権感覚を磨く指導となっていたか 」

■ 講師 齋藤 徳顕 指導主事 三重県教育委員会人権教育課市町支援班
黒川 雅幸 准教授 愛知教育大学教育科学系 学校教育講座

【 2年生生徒の人権学習の振り返りから(2年1組より) 】



私は今日の授業であらためて「仲間の大切さ」について知りました。仲間がいるから心強くなって、西光万吉も行動することにうつせたと感じ、なにか一から一人で行動にうつすにはすごく勇気があることだし、不安なことも沢山あると思うけど、「一人じゃなくてみんなで」という大切さや、仲間がいるという嬉しさや、行動にうつしやすい

など、一人一人じゃなかなかできないことができるというプラスな考えを学べました。人を信じるというのは、すぐにできることでもないし、誰にだってできることじゃないけど、少しずつ信用できる仲間を増やしていくことが大切だと思いました。

■ 3年生：現代の「部落問題」に関わる学習として「統一応募用紙」の学習から、一人一人が大切にされ、安心して生きられる社会を目指して展開されてきた取り組みの意義を理解するとともに差別解消への展望を持つ。自分たちがどのような行動等ができるのかを考える。

② 『第43回全国中学生人権作文コンテスト三重県大会(四日市市・三重郡)』

■ 3年4組「早川さん」が優秀作品賞を受賞

12月8日(日)四日市市文化会館において『人権作文コンテスト三重県大会三泗地区予選の入賞者表彰式』が行われました。今年度の人権作文コンテストには三泗地区内のすべての中学校から、「4,116編の人権作文」が応募され、10名の人権作文が三泗地区予選で入賞いたしました。三泗地区代表の10名の入賞者の中で、川越中学校からは3年早川さんの生徒作品が『優秀作品』という素晴らしい結果となりました。昨年度は川越中学校から2名、一昨年度は6名のみなさんが受賞という結果をいただきました。

【 人権作文「優秀作品賞受賞」の表彰を受ける、3年4組「早川さん」人権作文『普通って?』 】



伝統のある人権作文コンテストには、川越中学校からも毎年の夏休みの課題として全校生徒を対象として実施してる大切な取り組みです。今年度の川越中学校のみなさんの人権作文には、中学校で学んだ人権学習について考えたこと、日々の生活の中で疑問に思ったこと、友だちのこと、家族のことを取り上げたり、障がいを持つ人の人権、外国にルーツを持つ人にかかわる人権、男女平等にかかわることなど・・・。

このように人権にかかわって様々な視点を持ちながら人権作文に取り組んでくれました。本当に心に迫る素晴らしい作品がいっぱいでした。特に2・3年では川越中学校で学んだ人権学習について考えたことや学んだこと、疑問に思ったこと、その学んだことを活かして考えたことなどを題材にして取り組んでくれた仲間が多かったのが印象に残っています。また、三年生では修学旅行での学び「第五福竜丸」について、人権作文として「戦争と平和」を取り上げる人も多くいました。

今回の川越中学校の人権作文には、様々な身近な課題や問題などを「他人事」ではなく、「自分事」として考え、悩み、気づき、少しずつでも行動にしていこうという内容が多かったことも嬉しいことでした。

川越中学校では、これからも人権学習を大切に進めていきます。人権学習を通じて、自分を磨き、自分自身を高め、これからは「確かに生きる力」につながることを願って進めていきます。

③ 『11月27日(水)三重郡子ども人権フォーラム21』が開催され、川越中学校から2年生5名(各クラスから代表1名)が参加しました。

菟野町庁舎において、『三重郡子ども人権フォーラム21』が開催されました。フォーラムは三重郡の4つの中学校、8つの小学校の代表の子どもたちが集まり、『差別をなくそうとする生き方や、人権尊重の生き方に触れ、共に高め合うことを目的としています』。当日は三重郡の小中学校から50名の代表児童・生徒が集まり、中学校2グループ、小学校2グループに分かれて、自らの体験や考え、学校の人権学習を通じて学んだことなどを語り、伝えあいました。

■【中学校グループA(討議の柱)】「 どうして差別は起こるのか。心から打ち解けられる仲間とは? 」

■【中学校グループB(討議の柱)】「 自分らしさとは何かを考える。自身の悩みを見つめる 」



討議では、「いじめ」をはじめ、人権にかかわる様々な問題や課題について、自分の体験や思いを語り合いました。発言後に自然と拍手が出たり、一生懸命に話をする人の顔を見て、一生懸命にうなづきながら顔をしっかりと見て、心から聴く姿勢が見受けられました。あたたかい雰囲気の中、みんながみんなの話をしっかりと聴く姿勢がありました。だから初対面のグループでも自分の思いを伝えることができたのでしょね。本日12月23日(月)「人権フォーラムの還流報告会」が川越中学校で行われます。

【 川越中学校から「人権フォーラム21」に参加した2年生各クラスの代表者 】

2年1組 佐藤 さん 2年2組 千賀 さん 2年3組 古澤 さん

2年4組 鈴木 さん 2年5組 池戸 さん 以上の5名が参加し、活発な意見討議を行いました。

④ 『いのちの大切さを考える講演会②』

■講演会テーマ 「自分のことは 自分で認める(自認:じにん)」浦狩 知子さんから深く学ぶ。

■いなべ市 地域おこし協力隊 LGBT 専門相談員

講演会を終えて、浦狩さんに川越中学校のみんなの様子はどうでしたか?と尋ねました。

『川越中の生徒のみなさん全員が前のめりになるくらい一生懸命に話を聴いてくれる姿。私、今日、みんなに話をしている自分がみなさんの真剣に聴いてくれる姿に涙が出てきました。本当に嬉しかったです。ステージでしゃべっている私が一番感動しました。川越中のみなさんに「ありがとう」と感謝の言葉を伝えてください!』

相談したいこと、聞いてみたいことがあればいつでも下記の連絡先まで質問・相談など何でも伝えてくださいね!連絡待っています!(浦ちゃんより)

チーム「素自」共同代表 浦狩 知子(うらがり ともこ)さん

■ Tel. 090-5451-1938メール ■ uramama0406@gmail.com

この連絡先を記すことは、浦狩さん(浦ちゃん)から、ぜひ、紹介してくださいと承諾いただいています。



【生徒のみなさんからの感想から】

性的指向と性自認には様々なものがある。自分はどこに当てはまるのかを知ることができた。そして、周りの人の性はカミングアウトがなければ明確に知ることはできないし、見た目だけでは分からないこともある。勝手に決めつけをしないで、多様な性を理解できる人なろうと思った。「カミングアウト」はとても勇気の必要なことだ。友だちがカミングアウトをしてくれたときは、あたたかい言葉ををけるようにする。どんな性でも「友だち」であることには変わらないので、しっかりと受け止めることができると思う。カミングアウトをしても大丈夫だと思ってもらえるくらい信頼できる人になることが目標。浦狩さんのお話で、多様な人がいて、多様な個性を持っていることがわかった。それが否定されることのない環境をつくることが私のできることだと思う。一歩ずつでもみんなが生きやすい社会を仲間とつくり上げる！

【浦狩 知子さんの言葉から】

あなたは、多様な性のことが話題になり、中にはこの先どうなるのだろうと不安になったのではないでしょうが？でも安心してください。あなたは1ミリも悪くないのです。もしも、相談したいことがあふれてきたら、あなたの言うことを一緒に肯定し、うなずいてくれる人と一緒に話してください。

同じものを見て楽しいね、一緒に食べておいしいねと、同じ時間を共有するだけで、とても幸せな気持ちになれることを知ってほしいのです。

どうかお願いします。皆さんは「幸せな人」になってください。おうちの人はあなたの幸せを願っています。そして、困ってる人に「大丈夫？」「一緒にしよう」と声をかけてみてください。私たち大人も頑張ります。未来の担い手である皆さんが安心して学んで、遊んで、健康に育って、将来に希望を持てるように頑張ります。だから、皆さんは、将来なりたい自分になるよう目標を持ち、家庭や学校で学びを続けてほしいと願います。(浦狩 知子)

- ⑤ 三重県PTA 連合会主催『楽しい子育て全国キャンペーン』三行誌コンクール
川越中学校で毎年継続して取り組んでいる「三行誌」。この三行誌には、「家族の絆」を中心に、普段なかなか言えない家族への感謝の想い等を三行誌に表現。自分の素直な想いを言葉にする。これも人権学習につながる川越中学校で大切にしている取り組みです。

■ 1年3組「佐藤さん」の三行誌が「三重県入賞」！

【佐藤さんの三行誌の紹介】

『ママは仕事と家事の二刀流 どんなに疲れていても
私を優しくカバーしてくれる。おかげで毎日 私は元気にホームイン！』

■ 1年3組「富板さん」の三行誌が「三重県入賞」！

【富板さんの三行誌の紹介】

『「こなくていいよ」と言ったけど 母さがす。本当はうれしい授業参観』

■ 3年2組「水野さん」が三行誌で「三重県入賞」！

【水野 花音さんの三行誌の紹介】

『新しく買った大きいテレビ ご飯を食べるときは 絶対つけない
会話が楽しい家族の暗黙のルール』